

RITS

立命館アジア太平洋大学

Ritsumeikan Asia Pacific University

# PROGRESS REPORT



[季刊] 立命館アジア太平洋大学プロGRESS・レポート

1997年 春 創刊号

SPRING 1997/vol. 1

## ご挨拶



アドバイザー・コミッティ  
代表世話人

今、立命館は、かつてないスピードで変革を遂げようとしています。そして、その素晴らしいエネルギーは、将来に向けて、さらに大きな広がりを見せていくものと確信しています。

その変革の柱ともいえる「立命館アジア太平洋大学」は、世界五〇カ国から留学生を迎える「アジアの大学」といわれるもので、我が国の国際貢献の一端を担って行くものです。大分県や別府市などの地方自治体と産業界の両者から、この構想に支援をいただくことになっており、学界、官界、財界の三者が連携するプロジェクトであるということも、大変意義深い事業といえます。

アドバイザー・コミッティの名誉委員には、経団連の平岩外四名誉会長にご就任いただいたほか、各界を代表する方々にスタッフとしてご参加を賜り、コミッティの陣容も極めて充実したものとなる予定であります。

いよいよ、キャンパスの建設をはじめ、留学生の募集、スカラシップ制度の創設など、新大学の開設に向けて、具体的な取り組みを開始する段階となっております。委員の方々と関係各位の皆様のご理解のないご助言と今後益々のご協力を心よりお願い申し上げます。次ページをご覧ください。

アサヒビール株式会社代表取締役会長  
経済団体連合会副会長

樋口 廣太郎

## ◆ 創刊にあたって

立命館アジア太平洋大学の

開設に向けての様々な情報を、

アドバイザー・コミッティの皆様は

お知らせする印刷物として、

本誌をお届けするはこびとなりました。

委員の皆様のお声もだんだんに

ご紹介できれば、と考えております。

お届けいたします内容はじめ

新大学の開設に向けての事業につきまして

色々な機会を通じて

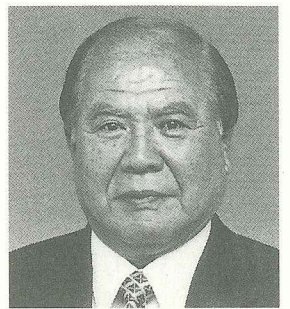
ご意見を頂戴できますことを

心から願う次第でございます。

季節ごとの発刊とする所存です。

折りに触れご覧いただければ幸いに存じます。

## アジアそして世界の 「知的拠点」に



アドバイザリー・コミッティ  
世話人

大分県は、「グローバルに考え、ローカルに行動する人づくり」を基本理念に、一村一品運動や、ローカル外交を積極的に推進してきました。私は今「九州アジア経済圏構想」を考えておりますが、この構想を実現するためには、アジア太平洋地域における人材育成が重要な課題となります。

わが国屈指の総合大学である立命館大学と、本県及び別府市の三者で合意した「立命館アジア太平洋大学」の設立は、「知的拠点」としての機能を果たすとともに、わが国が果たすべき国際貢献の点においても、きわめて意義があると考えます。

大分県は、別府市と一体となって、積極的に支援する所存です。アドバイザリー・コミッティの委員の皆様には、卓越したご見識から、新大学の運営に関するご指導、ご協力をお願いいたします。

平松 守彦

大分県知事

## 市民開放型の 大学に期待



アドバイザリー・コミッティ  
世話人

別府市では、大学設置期成同盟会が発足し、各種の事業を計画しているほか、青年会議所や市民のまちづくりグループなども大学の開設を熱烈に歓迎しており、地元市民の新大学によせる期待は日増しに強くなっています。

「国際観光温泉文化都市」を目指す本市にとって、真に国際的な大学が開設されることは、本市の国際化を一層進展させるうえで大変意義深いものであり、教育、文化面においても、市民開放型の大学であることから、本市の高等教育、文化向上に一層寄与するものと期待しています。

引き続き、学校法人立命館との協力のもと、大分県と連携をとりながら開学に向けて努力する所存ですので、アドバイザリー・コミッティ委員の皆様には、何卒ご支援をお願いいたします。

井上 信幸

別府市長

## 真理の追求は 国境を越えて



立命館アジア太平洋大学  
最高顧問

「立命館アジア太平洋大学」の構想は、アジア太平洋地域と、それに含まれる日本の教育の必要に合致しているだけでなく、安定と繁栄を求める国際社会全体の要望にこたえるものだと信じます。各界の指導的な立場にある方々の理解と支援の下に、この構想が実現に向かってつつがなく進捗しているのを喜ばしく思います。

新大学はあくまでも開かれた国際性豊かなものであり、高い知的水準をめざしつつ自由な雰囲気の中で在来の専門領域や国境を超えた真理の追求が、のびのびと偏見なしに行われる場となることでしょう。その実現こそが、学問と研究と討論を通じて、ほんものの国際理解が推進されることを保証してくれるにちがいありません。

皆様と手を携えながら、私としても御協力を惜しまない所存です。

立命館大学国際関係研究科客員教授  
国際連合人道問題担当事務次長

明石 康

## 本格的な 国際大学の創造へ



立命館アジア太平洋大学  
学長(予定者)

立命館アジア太平洋大学は、二十一世紀に展望されるグローバル化社会、とりわけアジア太平洋の時代に、立命館の建学の精神である自由と清新、および平和と民主主義の教学理念を生かし、アジア太平洋さらには全世界諸地域の共存と持続的・平和的な発展を積極的に担う人材の養成、ならびに「アジア太平洋学」という新しい学問研究の創造を目標として創設されるものです。これは、わが国の高等教育が二十一世紀に向けて切り開くべき新しい境地であり、かつてわが国で試みられたことのない本格的な国際大学の創造という、革新的な一大事業であります。

今、この新しい大学創設に対する、国内外、各方面、各層の方々の共感と具体的な支援協力の環が大きく広がっております。私たちの立命館アジア太平洋大学に対する期待の大きさを実感しますとともに、その責任の重さを改めて噛み締めさせていただきます。アドバイザリー・コミッティ各委員の皆様方からのご助言とご支援を心よりお願い申し上げます。

学校法人立命館副総長  
立命館大学経済学部教授

坂本 和一

## 若い世代の世界への 意欲に応える



学校法人立命館  
総長

我が国の高校生は、この立命館アジア太平洋大学に、どのような反応を示していただいているか。これについて、昨年十一月にアンケート調査を行いました。

回答した高校生の九〇パーセントが「世界五〇カ国の留学生との国際交流・生活に魅力」を感じ、八四パーセントが「立命館アジア太平洋大学の新しい学部に興味」を持っており、三五パーセントが「受験を希望」しています。

日本の青年は世界に向かって高い意欲を持っており、それに応じていくのかが我々高等教育に携わる者の責務であり、新大学の創設は、太平洋地域の人材育成の課題に応えるとともに、国内の若い世代からの世界への意欲の要請に応えるものとなっています。

現在、国内外から各界を代表される一五〇名に及ぶ方々が立命館アジア太平洋大学アドバイザリー・コミッティに就任いただいております。これはこのうえない励ましであり、同時に私どもの責任の重さを強く自覚する次第です。皆様方の高いご見識からのご意見、またご協力・ご支援のほどを心よりお願い申し上げます。

立命館大学長  
立命館大学理工学部教授

大南 正瑛

立命館  
紹介  
歴史  
シ

## 「立命館」名称の由来

「第1回」

「立命」という名称は、中国の古典「孟子」の盡心章の一節にある「よつじめたが妖<sup>よつじめたが</sup>寿<sup>しん</sup>貳<sup>じ</sup>はず、身を修めて以ってこれを俟<sup>まち</sup>つは、命を立つる所以<sup>ゆえん</sup>なり」から採ったものです。その意味は、「人間には、若死にする人もあれば長生きする人もあるが、それはすべて天命で決められていることである。だから、生きていく間は我が身の修養（勉強）に努めて天命を待つのが人間の本分を全うすることなのである」という考えをあらわしています。

学園名である「立命館」は、人間がその本分を全うするための場所を意味していると解釈できます。

写真の扁額は、学祖・西園寺公望が大書されたもの（額はタテ七一cm×ヨコ二二三・五cm）。西園寺公公によって学園が創始された日付「明治二（西暦一八六九）年秋九月廿三日」の文字を読むことができます。

# 立命館アジア太平洋大学とは

## 新しいコンセプトの大学が誕生します

立命館アジア太平洋大学は、一九九九年、九州の大分県別府市に、これまでにない新しいコンセプトの大学として創設する予定です。

二十一世紀を目前に控え、アジア太平洋地域は、近年急速な経済社会の発展を遂げています。アジア太平洋地域が世界の「成長センター」としてその役割を増す中、アジア太平洋さらには全世界諸地域の共存と持続的・平和的な発展を積極的に担う人材を育成することが求められています。すなわち、アジア太平洋地域の多様性を理解し、そこで生起する様々な社会的・経済的な課題を解決していくリーダーや、国境を越えたビジネス・マネジメントの専門能力を身につけ、国際ビジネスの最前線で活躍できるプロフェッショナルの育成です。

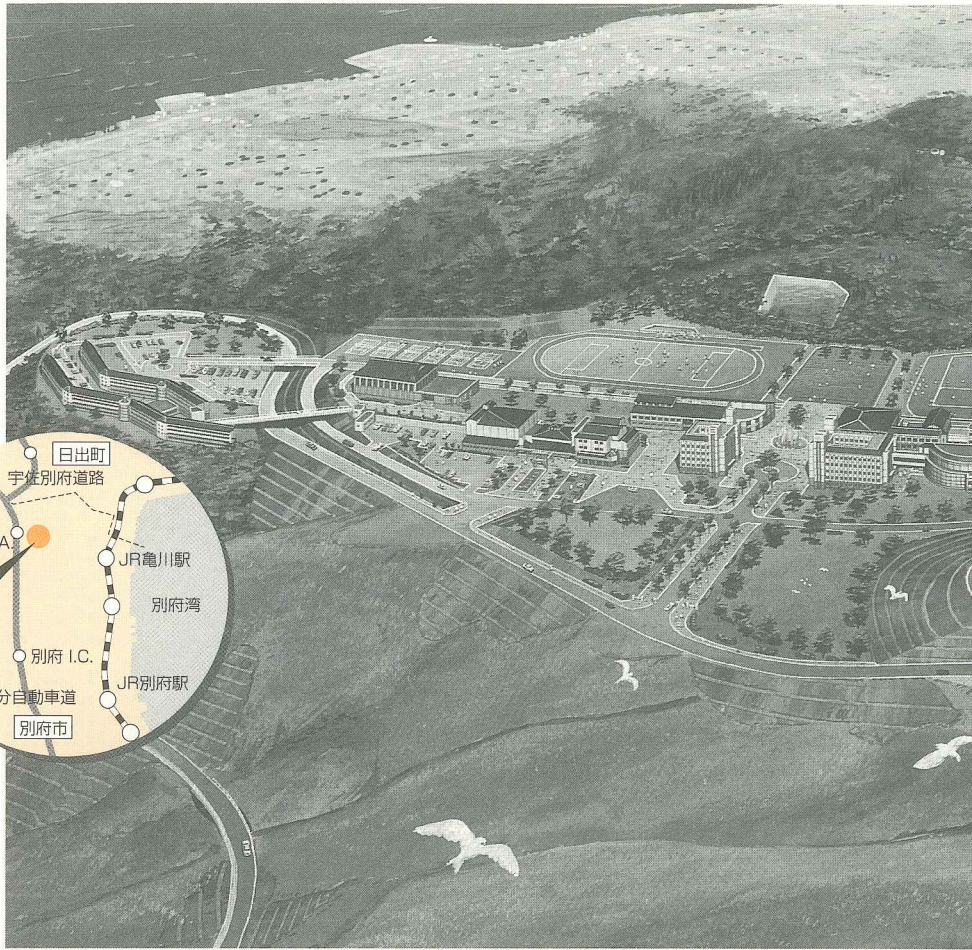
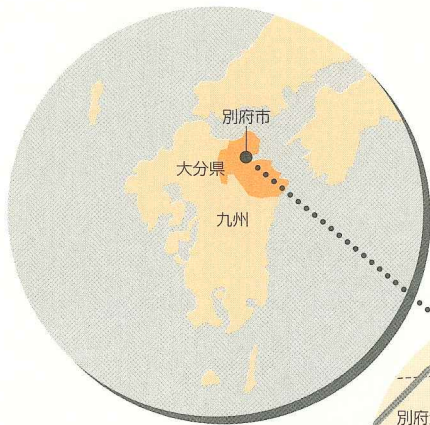
立命館アジア太平洋大学は、このような人材育成の要請に因應する拠点となる、「二十一世紀に求められる新しい大学」の創造を目的として設置する大学です。

## 新しい大学の教学の基本目標

立命館アジア太平洋大学の教学の基本目標は、次の四点です。

第一は、

アジア太平洋地域における多様なネットワークに  
支えられ、この地域の持続的・平和的發展と



立命館アジア太平洋大学建設予定地は、別府市北部の柔らかな起伏の草原部に位置し、眼下には別府市街・鉄輪温泉の湯けむり、その先に別府湾が広がり、左右に国東半島・高崎山が、晴天の日には遠く四国まで望まれます。

共生を進める、国際的な大学をめざすこと。  
 第二は、  
 アジア太平洋地域を舞台に  
 世界で活躍する人材を育成すること。

第二は、

アジア太平洋地域から世界に

新しい知識や情報を発信する大学を創設すること。

そして第四は、

アジア太平洋研究に関する

「センター・オブ・エクセレンス」をめざすことです。

### 本格的な国際大学をめざします

この大学では、「アジア太平洋学部」と「国際マネジメント学部」（いずれも仮称）の二学部を設置する予定です。最大の特徴は、日本人学生五〇％、留学生五〇％という

学生構成をいかした教育を行う、真に国際的な大学であることです。アジア太平洋地域を中心とした世界約五〇カ国・地域からの留学生と日本人学生が、「マルチ・エスニック・コミュニティ」ともいうべき

共同体の中で、民族・宗教・文化の違いを越え、共に学び、生活しながら相互理解を深め合う大学をめざしています。

また、教員も数多く海外から迎え、世界各国・地域の大学と緊密なネットワークを持つ国際

性豊かな大学です。



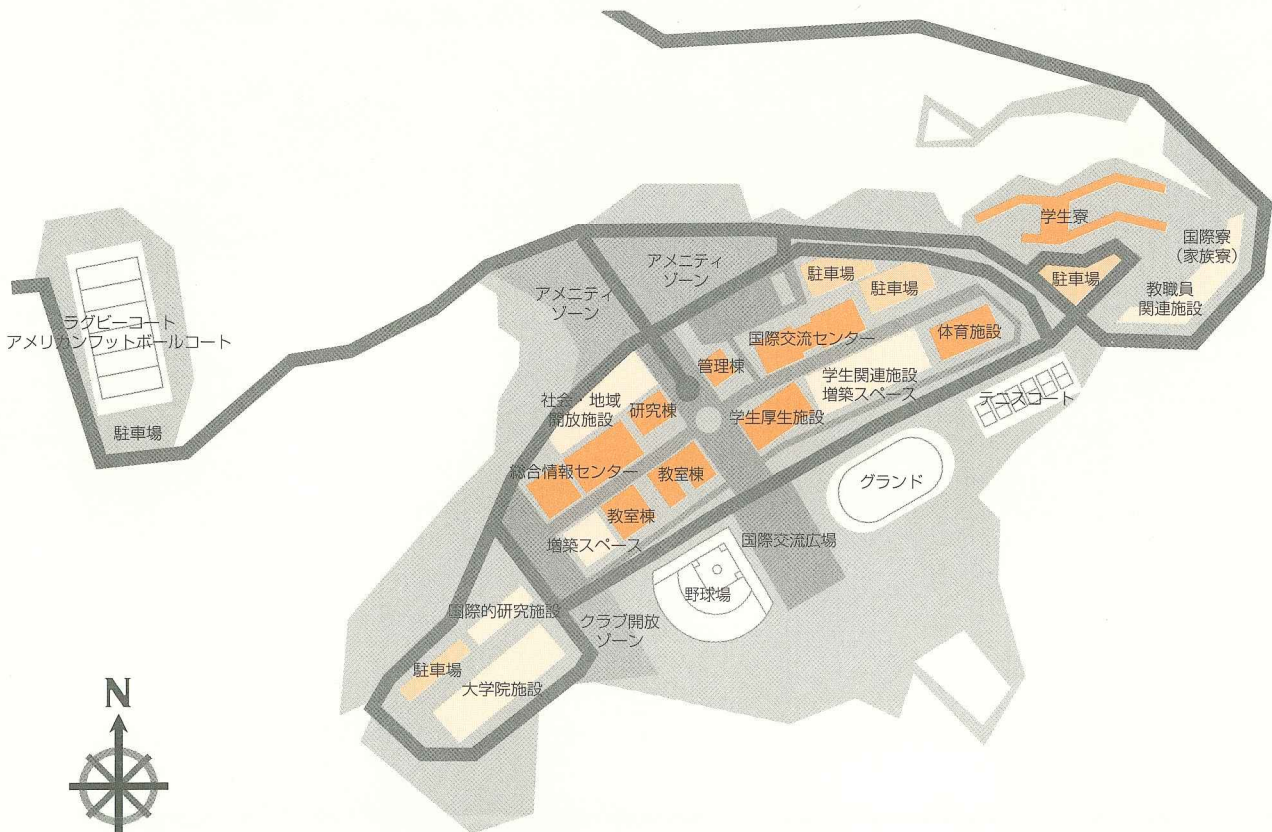
## 教育システムとカリキュラムの特徴

立命館アジア太平洋大学では、四月と九月の年二回、学生が入学し、半年単位で授業が完結するセメスター制度をとります。入学にあたっては、日本語または英語のいずれか一方で大学教育を受けられるだけの語学能力を必要としますが、授業は日本語もしくは英語で開講され、基本となる科目については、日本語・英語の二言語で並行して開講されます。また、言語教育は、国際ビジネスの共通言語である英語に加え、日本人学生に対してはアジアの言語、留学生に対しては大学四年間で実践的な日本語コミュニケーション能力を養成します。さらに、奨学金制度や、「バディ・システム」、学生寮などを用意して、留学生が日本の生活習慣や文化を理解し、安心して学生生活を送ることができるよう援助します。

カリキュラムは、基礎教育としてアジア太平洋地域の風土や文化、政治、社会、歴史、習慣、異文化コミュニケーションなどを学びます。そして、企業等で実習しながら学ぶ「インターンシップ」を取り入れながら、「アジア太平洋学部」では、情報メディア・現代社会・都市と環境・観光なども含め、アジア太平洋地域の諸課題を理解し、問題を発見・解決し、未来を創出する教育を行います。また、「国際マネジメント学部」では、アジア太平洋地域において急激に成長する企業のマネジメントについて、企業ファイナンス・生産と流通・人材マネジメント・マーケティングなどの教育を行います。

我が国に類例を見ない新しい大学。立命館アジア太平洋大学は、二十一世紀の日本の高等教育の一つのモデルとなることをめざしています。

■ キャンパス配置図（計画）





■ 提携関係にある18カ国(地域)43大学・研究機関

【アメリカ】

- ① ピッツバーグ大学
- ② オクラホマ大学
- ③ アメリカン大学
- ④ 南カリフォルニア大学\*
- ⑤ イリノイ・カレッジ
- ⑥ APSIA  
(Association of Professional Schools of International Affairs)

【カナダ】

- ⑦ プリティッシュ・コロンビア大学
- ⑧ オカナガン・ユニバーシティ・カレッジ

【オーストラリア】

- ⑨ メルボルン大学
- ⑩ マコーリー大学

【ニュージーランド】

- ⑪ アジア2000年財団
- ⑫ ヴィクトリア大学

【イギリス】

- ⑬ ウォーリック大学
- ⑭ サセックス大学
- ⑮ ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ

【フランス】

- ⑯ トゥールーズ第一社会科学大学
- ⑰ トゥール商業大学
- ⑱ パリ第一大学
- ⑲ トゥールーズ・ル・ミラーユ大学

【ドイツ】

- ⑳ ベルリン・フンボルト大学
- ㉑ チュービンゲン大学

【ポーランド】

- ㉒ ポーランド科学アカデミー社会科学部

【ロシア】

- ㉓ ロシア科学アカデミー東洋学研究所

【中華人民共和国】

- ㉔ 南開大学
- ㉕ 吉林大学
- ㉖ 清華大学
- ㉗ 華東師範大学
- ㉘ 同済大学

【香港】

- ㉙ 香港中文大学

【韓国】

- ㉚ ソウル大学
- ㉛ 延世大学
- ㉜ 慶熙大学
- ㉝ 高麗大学

【フィリピン】

- ㉞ フィリピン国立大学
- ㉟ デ・ラ・サール大学

【ベトナム】

- ㊱ ハノイ工科大学

【マレーシア】

- ㊲ マラヤ大学
- ㊳ マレーシア戦略国際問題研究所

【インドネシア】

- ㊴ ガジャマダ大学
- ㊵ インドネシア大学

【台湾】

- ㊶ 中央研究院 近代史研究所
- ㊷ 国立台湾師範大学\*

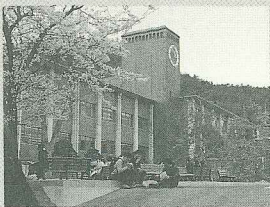
【タイ】

- ㊸ タマサート大学

\*印は双方合意、協力協定締結予定。



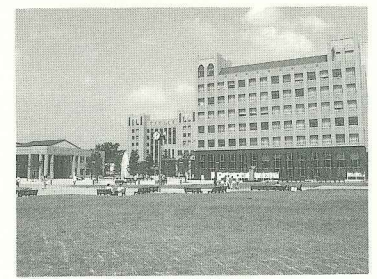
立命館アジア太平洋大学は、この立命館  
 学園と大分県、別府市  
 との協力、そして広く  
 アドバイザリー・コミ  
 ユニティの方々の支援の  
 結晶として開設される  
 のです。



衣笠キャンパス

立命館アジア太平洋大学を設置する学校  
 法人立命館は、「自由と清新」を建学の精神  
 とし、「平和と民主主義」を教学の基本理念  
 とする創始一八六九(明治二)年以來一三  
 〇年に及ぶ歴史を有する学園です。現在、  
 約三万人の学生が、京都にある衣笠キャン  
 パス(法学部、経済学部、経営学部、産業  
 社会学部、国際関係学部、政策科学部、文  
 学部)と琵琶湖南東部に位置するびわこ・  
 くさつキャンパス(理工学部)の八つの学  
 部と大学院で学んでいます。平和研究・平  
 和教育を進展させる、「国際平和ミュージア  
 ム」や、研究所、三つの付属高校、一つの  
 付属中学も擁する総合学園です。

立命館  
 学園紹介



びわこ・くさつキャンパス

## ご挨拶

私たちは二十一世紀をアジア・太平洋の世紀にしたいという強い願いを持っております。大きく変わる世界の中で、もっとも希望に満ちた地域はこのアジア・太平洋であります。

私はこれまで、中国、韓国、アセアン諸国の首脳や民間指導者と意見交換を行う多くの機会を持つてまいりました。この地域は豊かな資源と自然環境に恵まれ、未だ発掘されていない優れた人材を含め、潜在能力の宝庫であります。経済の発展段階で申せば欧米諸国に比べて若い国々ですが、それだけに大きな可能性を持ち、同時にこれらの国々の人々には最先端の教育を必要としております。

このような中で考えられたのが、世界五〇か国からの留学生を迎える立命館アジア太平洋大学であります。本構想は非常に壮大であり、本来は国家プロジェクトに近いものですが、これを地方自治体と私学が中心となり、さらに海外進出の日本企業と現地の国の人々が支援していくという特色を持っております。こうした構想は我が国では初めてであり、それだけに多くの皆様の期待を頂けるものと思っております。

創造性と人間性を重んじる教育改革を理念とする立命館アジア太平洋大学の成功を心よりお祈りします。

経済団体連合会名誉会長 東京電力相談役

平岩 外四



### 〔外国元首、外国首脳〕

名誉委員

アドバイザー・コミッティ名簿



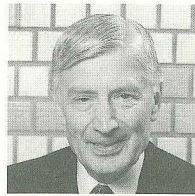
スハルト

インドネシア共和国大統領



Dr. マハティール・ビン・モハマッド

マレーシア国首相



アンドレアス・ファン・アフト

元オランダ王国首相



アルベルト・フジモリ

ペルー共和国大統領



村山 富市  
衆議院議員 (大分県出身)



平岩 外四  
経済団体連合会名誉会長  
東京電力相談役

【国内関係者】



バンハーン  
タイ王国前首相



フィデル・V・ラモス  
フィリピン共和国大統領



アルフォソ T. ユーチェンコ  
駐日フィリピン共和国特命全権大使



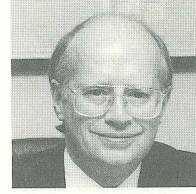
マーティン・ウィヴァース  
駐日ニュージーランド国特命全権大使



金 太智  
駐日大韓民国特命全権大使



ウイスバー・ルイス  
駐日インドネシア共和国特命全権大使

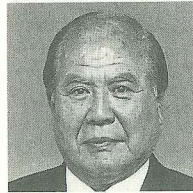


アシュトン・カルバート  
駐日オーストラリア特命全権大使

アンバサダーメンバー



大南 正瑛  
学校法人立命館総長



平松 守彦  
大分県知事



樋口廣太郎  
アサヒビール株式会社代表取締役会長、  
(社) 経済団体連合会副会長

代表世話人



シヤワツツ・アッタユック  
駐日タイ王国特命全権大使

世話人



末松 謙一  
株式会社さくら銀行取締役会長、  
(社) 経済団体連合会副会長



西島 安則  
日本学術会議副会長、  
元京都大学総長



河原 四郎  
大同生命保険相互会社取締役会長



井上 信幸  
別府市長

委員 (五〇音順)

- 赤澤 璋一 機械産業記念事業財団特別顧問、  
国際経済交流財団特別顧問  
日本・南太平洋経済交流協会会長、  
太平洋学会会長、元日本貿易振興会理事  
明石 康 国際連合人道問題担当事務次長  
秋山 富一 住友商事相談役  
安部 浩平 中部電力会長  
新井 正明 住友生命保険名誉会長  
荒巻 恭士 きんでん会長  
安西 邦夫 東京ガス社長  
安藤 百福 日清食品会長  
井植 敏 三洋電機会長  
池坊 専永 華道池坊四十五世家元、  
(財) 池坊華道会理事長・総裁  
磯邊 律男 博報堂会長  
伊藤 助成 日本生命保険社長、経済団体連合会副会長  
稲葉 興作 石川島播磨重工業会長  
今井 敬 新日本製鐵社長、経済団体連合会副会長  
牛尾 治朗 ウシオ電機会長、経済同友会代表幹事  
宇野 収 東洋紡相談役  
梅田 善司 川崎重工業相談役  
枝村 純郎 住友商事顧問、大和総研顧問、  
元駐インドネシア・ロシア大使  
大賀 典雄 ソニー会長、日本商工会議所特別顧問  
大河原 良雄 元駐米大使、国際協力推進協会理事長、  
世界平和研究所理事長、  
経済団体連合会特別顧問、外務省顧問

- 大國 昌彦 王子製紙社長  
大澤 弘之 宇宙開発事業団顧問、前科学技術会議議員、  
元科学技術事務次官  
大竹 美喜 アメリカンファミリー生命保険会長  
大西 正文 大阪ガス会長、大阪商工会議所会頭  
岡崎 真雄 同和火災海上保険社長  
岡部 敬一郎 コスモ石油社長  
小川 進 東邦ガス会長  
小澤 三敏 住友重機械工業社長  
小野田 隆 住友海上火災保険社長  
鹿取 泰衛 国際交流基金顧問、元駐ソ連・中国大使  
川上 哲郎 住友電気工業会長、関西経済連合会会長  
河原 四郎 大同生命保険会長  
岸本 泰延 昭和電工相談役  
北島 義俊 大日本印刷社長  
木田 宏 (財) 新国立劇場運営財団理事長、  
元文部事務次官  
金馬 昭郎 京阪電気鉄道社長  
久米 豊 日産自動車相談役、経済団体連合会副会長  
後藤 康男 安田火災海上保険会長  
小長 啓一 アラビア石油社長、元通産事務次官、  
日本経営者団体連盟副会長  
小林 公平 阪急電鉄会長  
小林 庄一郎 関西電力会長  
小林 陽太郎 富士ゼロックス会長、経済同友会副代表幹事  
齋藤 興一 岩谷産業社長  
坂田 耕四郎 三井生命保険社長  
坂本 卓 日鉱金属社長  
櫻井 孝頼 第一生命保険社長  
佐藤 文夫 東芝会長  
佐野 一夫 小野薬品工業会長  
椎名 武雄 日本アイ・ビー・エム会長、  
経済同友会副代表幹事

塩野 芳彦 塩野義製薬社長  
 篠崎 昭彦 住友金属鉱山会長  
 新宮 康男 住友金属工業会長  
 末松 謙一 さくら銀行会長、経済団体連合会副会長  
 鈴木 正 第一製薬社長  
 鈴木 敏文 イトーヨーカ堂社長  
 鈴木 治雄 昭和電工名誉会長  
 関本 忠弘 日本電気会長、経済団体連合会副会長  
 千 宗室 茶道裏千家家元  
 高橋 靖 大日精化工業社長  
 高原 慶一朗 ユニ・チャーム社長  
 武内 伸允 東洋信託銀行社長  
 田代 和 近畿日本鉄道社長  
 巽 外夫 住友銀行会長  
 館 豊夫 三菱自動車工業相談役  
 田中 義巳 ニチメン会長  
 垂水 公正 前アジア開発銀行総裁  
 千畑 一郎 田辺製薬社長  
 轉法輪 奏 大阪商船三井船舶会長、経済同友会副代表幹事  
 豊島 格 日本貿易振興会理事  
 豊田 章一郎 トヨタ自動車会長、経済団体連合会会長  
 中里 良彦 富士電機社長  
 西尾 哲 日商岩井相談役  
 西島 安則 日本学術会議副会長、元京都大学総長  
 萩原 晴一 横浜ゴム社長  
 羽倉 信也 第一勧業銀行相談役  
 早崎 博 住友信託銀行会長  
 樋口 廣太郎 アサヒビール会長、経済団体連合会副会長  
 深田 祐介 作家  
 福原 義春 資生堂社長  
 藤澤 友吉郎 藤沢薬品工業会長  
 藤村 宏幸 荏原会長  
 藤村 正哉 三菱マテリアル会長

古河 潤之助 古河電気工業社長  
 古川 昌彦 三菱化学会長、経済団体連合会副会長  
 前田 勝之助 東レ社長  
 牧 冬彦 神戸製鋼所相談役、神戸商工会議所会頭  
 斑目 力曠 ネミック・ラムダ会長  
 松下 正治 松下電器産業会長  
 三重野 康 日本銀行名誉顧問  
 三田 勝茂 日立製作所会長  
 御手洗富士夫 キヤノン社長  
 水口 弘一 野村総合研究所相談役  
 三野 重和 クボタ会長、大阪工業会会長  
 宮村 眞平 三井金属鉱業社長  
 三好 俊夫 松下電工会長、関西経営者協会会長、日本経営者団体連盟副会長  
 茂木 友三郎 キッコーマン社長、経済同友会副代表幹事  
 森 英雄 住友化学工業会長  
 諸橋 晋六 三菱商事会長  
 八尋 俊邦 三井物産相談役  
 山口 信夫 旭化成工業会長  
 山田 菊男 三菱石油相談役  
 山本 卓眞 富士通会長  
 湯淺 暉久 ユアサコーポレーション社長  
 米倉 功 伊藤忠商事相談役  
 若原 泰之 朝日生命保険会長  
 渡辺 混 三和銀行会長  
 和田 一夫 世界市民企業グループ八佰伴代表

【京都・滋賀経済界】

秋元 満 京都銀行頭取  
 稲盛 和夫 京セラ会長、京都商工会議所会頭  
 坂部 三太郎 ダイニックス会長、(社)京都工業会会長  
 佐藤 研一郎 ローム社長  
 寿栄松 憲昭 日本電池相談役

【九州経済界】

鈴木 正三 日本写真印刷会長  
 高橋 宗治郎 滋賀銀行頭取  
 立石 義雄 オムロン社長  
 西八條 實 島津製作所会長  
 堀場 雅夫 堀場製作所会長  
 村田 純一 村田機械社長  
 村田 泰隆 村田製作所社長  
 安藤 昭三 大分銀行頭取、大分経済同友会代表幹事  
 石井 幸孝 九州旅客鉄道社長  
 江副 茂 東陶機器社長  
 大野 茂 九州電力社長  
 小野 浩 大分交通社長、大分朝日放送社長、大分県経営者協会会長  
 菊池 功 安川電機会長  
 上妻 亨 トキハ相談役  
 白石 司 九電工社長  
 林 武志 朝日ソーラー社長  
 福島 親比古 大分瓦斯社長  
 吉村 益次 ダイコー会長、大分商工会議所会頭  
 和智 午郎 西部ガス会長

アドバイザリー・コミッティ  
 名誉委員 ..... 八名  
 アンバサダーメンバー ..... 六名  
 委員 ..... 三十一名  
 合計 ..... 一四五名

(一九九七年三月三十一日現在)  
 \*敬称は省略させていただきます。

## 新大学総合ニーズ調査

平成8年の春と秋に、企業(495社)と高等学校・予備校(476校)および高校生(799名)を対象に新大学のニーズを探るアンケート調査を実施しました。ここではいくつかの特徴をご紹介します。

### ■企業へのアンケート調査の特徴

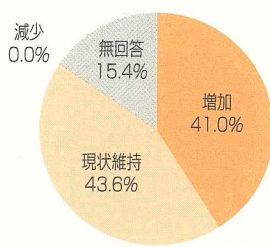
アジア太平洋地域への企業進出は今後も増加の傾向にありますが、いくつかの重要な問題点が浮上しており、これらを解決できる人材の育成が求められています。【①~③参照】

### ■高等学校・予備校および高校生へのアンケート調査の特徴

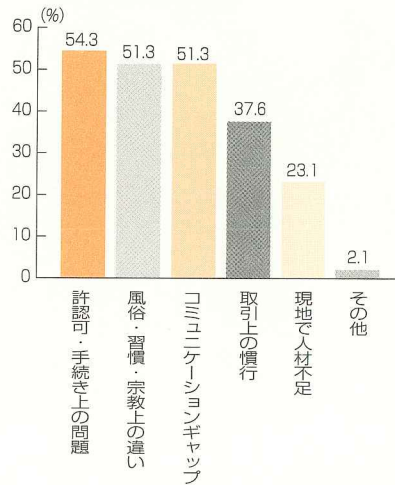
高等学校の国際化教育におけるアジア太平洋

地域の位置付けおよび高校生のアジア太平洋地域への興味関心は非常に高く、それが立命館アジア太平洋大学の両学部への興味・関心度の高さに反映しています。【④~⑥参照】  
また、立命館アジア太平洋大学の教育システムに関する関心も高い結果が出ています。【⑦参照】

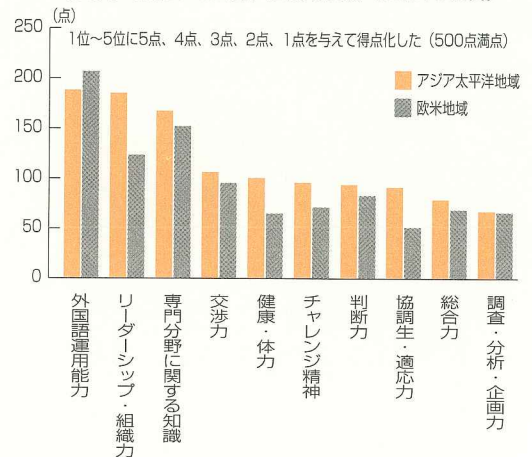
#### ①アジア太平洋地域の事業所の今後の見通し



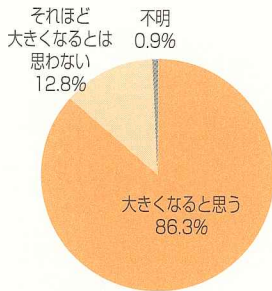
#### ②現地の経営上の問題点



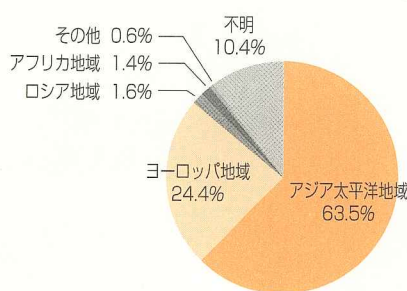
#### ③海外で活躍する人材に必要な資質(上位10項目)



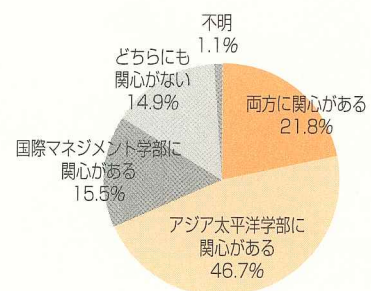
#### ④国際化教育におけるアジア太平洋地域の位置



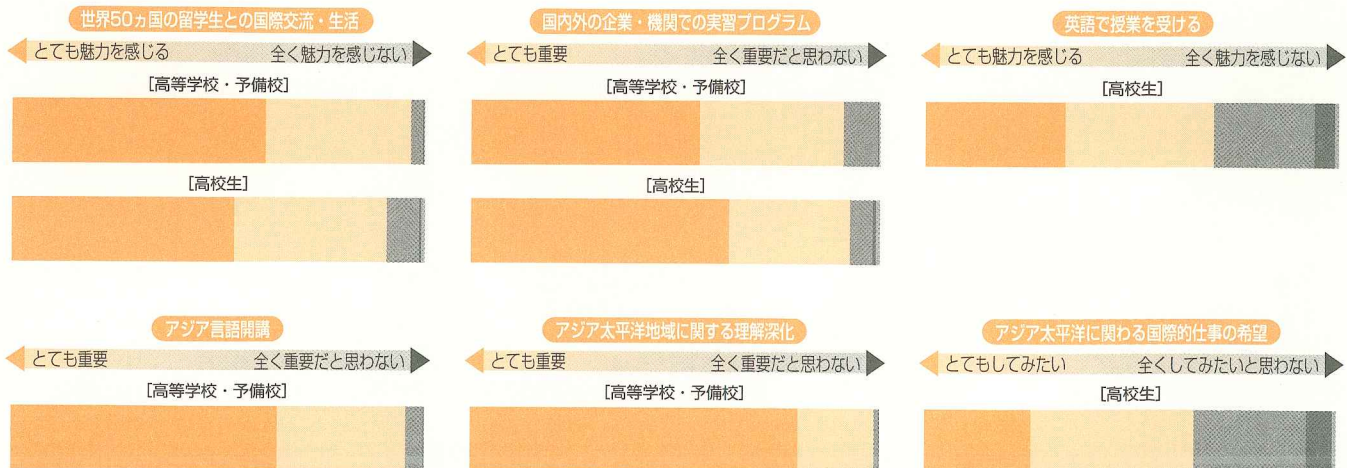
#### ⑤アジア太平洋地域への興味度合



#### ⑥立命館アジア太平洋大学への興味・関心度



#### ⑦立命館アジア太平洋大学の教育システムに関する関心度



## アジア太平洋地域の大学 学長会議開催される

去る1月13日から15日、ホノルルにおいて、第6回アジア太平洋大学学長会議が開催されました。

会議のテーマは、「英知の共有ーアジア太平洋パートナーシップ」。東海大学とハワイ大学の主催で、立命館からは、坂本和一副総長（立命館アジア太平洋大学学長予定者）と高元昭統経営学部教授が参加しました。この会議には、アジア太平洋地域の8カ国、29大学・機関から90余名が出席し、「今後も国や地域を越えて協力する」ことを合意した『ホ

ノルル宣言』が採択されました。

坂本副総長と高元教授は、ハワイ大学および東西センター、またその他の参加大学の代表者に対して立命館アジア太平洋大学の構想

を説明し、今後の協力をよびかけました。これに対しては、ハワイ大学など他から強い関心が示され、近々協力協定締結が行われる予定です。

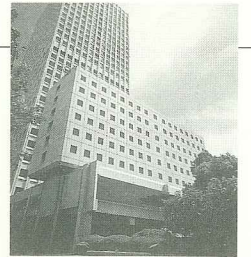


## 幹事会のお知らせ

来る5月28日水曜、東京経団連会館にて、立命館アジア太平洋大学アドバイザーコミッティの幹事会が開催されます。大阪会場は、6月10日火曜、大阪中之島センタービル。内容としては、事務局から「新大学開設にむけての進捗状況、今後の具体的計画について」のご説明を行い、幹事の方々からのご意見を頂戴するという催しです。

日程・会場	[東京会場] 平成9年5月28日(水) 午前11時~午後1時 [大阪会場] 平成9年6月10日(火) 午前11時~午後1時	於	経団連会館9階906会議室 中之島センタービル3階「月の間」
-------	--	---	-----------------------------------

次第	代表世話人挨拶 [東京] アサヒビール株式会社代表取締役会長……………樋口廣太郎 世話人挨拶 [大阪] 大同生命保険相互会社取締役会長……………河原四郎 設置主体者からの挨拶 大分県知事……………平松守彦 学校法人立命館理事長……………川本八郎 挨拶ならびに新大学の理念、開設にむけての進捗状況報告 立命館アジア太平洋大学学長予定者……………坂本和一 意見交換 ほか
----	---



## 「アジア太平洋学」 シンポジウムのお知らせ

新大学の教育研究の基礎に据えるのは、新しい分野としての「アジア太平洋学」です。この学問分野の確立に向けた、シンポジウムを開催します。国内外の研究者も広く参加し、関心を持つ一般の方々にも公開されるシンポジウムです。

テーマ	国際学術シンポジウム「アジア太平洋のエポック」(仮題)	
開催日	平成9年6月21日(土)~22日(日)	
場所	大分県別府市(予定)	
内容	基調講演「アジア太平洋学の可能性-問題提起として(仮題)」 全体シンポジウム「アジア太平洋のエポック」	坂本和一(立命館アジア太平洋大学学長予定者) コーディネーター長田豊臣(立命館副総長、文学部教授)ほか



川本八郎(かかもと・はちろう)  
昭和9年生れ 石川県出身  
昭和33年立命館大学法学部卒業  
同年4月学校法人立命館へ就職  
学生課長、総務課長、  
総務部長を経て  
昭和59年常務理事  
昭和64年専務理事  
平成7年11月より理事長に就任

川本八郎

立命館アジア太平洋大学の設立に向け、  
してのアドバイザーコミッティに、かくも多数の方々のご参加を戴きましたこと、心より御礼申し上げます。  
このたび皆様へのお知らせとして、本誌を発行することといたしました。アジア太平洋大学開設に向けての準備の状況をお伝えしてまいりたいと思っております。  
新大学の開設。難しい事業です。しかし求める人がある限り、この大学は必ず開かれるものであり、またそのために全学を挙げて邁進してまいります。これからのご鞭撻、ご支援をお願い申し上げます。編集後記といたします。



**RITS**

発行：学校法人立命館  
〒603-77 京都市北区等持院北町56-1  
TEL.075-465-8366 (理事長室)